

昭和切手の南方占領地使用 1942-1944

田畑 裕司

昭和切手は、中学生の頃から集めているので、もう50年前になります。ただ、熱心に集めたのは最初の10年位で、この間に全日本切手展、JAPEX、そして国際切手展まで出品した経験もあります。社会人になってからは、興味が次第に小判切手に移ったものですから、昭和切手の収集は余り進展もなく、時たま入手する程度でした。

高校生の時の憧れの対象は、昭和切手の南方占領地使用例でした。国内使用にはない派手な形式の消印が魅力的で、それに加えて、国内の切手商やオークションでも見かけることがなく、希少性もあったからです。当時、当支部の例会で熱心に活動していた、阿武義人氏（現山口県在住）から「いずみ切手研究会の入札誌に南方使用が出ている」と情報を得て、メールで代行入札してもらい入手した第1次昭和8銭のマライのカットはお宝でした。時は流れ、長らく南方使用例が入手困難な時期が続きましたが、少しずつ出回るようになり、それらを手に入れていきました。ようやく、香港、マライ及びスマトラで1フレーム（16リーフ）になりましたので紹介します。特に、日本国内では見られない現地切手とのコンビネーション・カバーに注目していただきたいと思います。

マライの消印



マライ

ペラー州切手（漢字加刷）と第1次昭和3銭切手とのコンビネーション
マライ半島内 封書

皇紀 局名・英語（蘭領時代の日付印を暫定使用）



BATU PAHAT 紀元2603年(1943年)2月7日→JOHORE

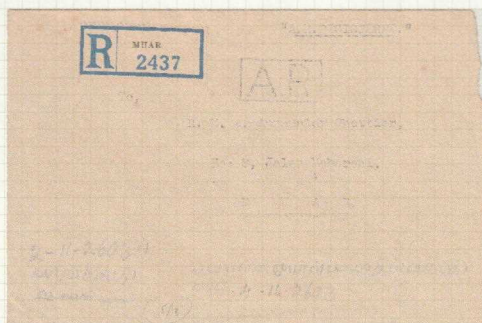
料金: マライ半島内封書8セント
(ペラー州切手(加刷)2セント+昭和切手6銭貼)

(1リーフ目) マライでは、昭和切手が1942年12月から無加刷で使用された。ペラー州切手（漢字加刷）と第1次昭和3銭とのコンビネーション・カバーである。マライ半島内の封書が8セントなので、1セント＝1銭の換算である。蘭領時代の日付印を暫定使用したもので年号は皇記。

マライ

マライ切手と第1次昭和25銭切手とのコンビネーション
マライ半島内 配達証明・書留

皇紀 局名・英語 (蘭領時代の日付印を暫定使用)



MUAR2 紀元2603年(1943年)10月31日
→ジョンポール パル局/検閲済
→MUAR3 11月2日→JOHORE BAHRU

料金:マライ半島内封書8セント、
書留15セント、配達証明12セント、
合計35セント(マライ切手10セント
+昭和切手25銭貼)

裏面:縮小率60%

(第2リーフ) マライ切手と第1次昭和25銭とのコンビネーション・カバーである。あて名(裏面)の「A. R.」は配達証明のことで、郵便料金もマライ半島内の配達証明・書留35セント(10セント+25銭)で合っている。

マライ

海峡植民地切手（ローマ字加刷）と第1次昭和6銭切手とのコンビネーション
マライ半島内 封書

片仮名「大日本」ゴム印



ペナン 紀元2603年(1943年)3月11日→ペナン局/検閲済→SELAMA
料金: マライ半島内封書8セント
(海峡植民地切手(ローマ字加刷)2セント+昭和切手6銭貼)

(第3リーフ) 海峡植民地切手（ローマ字加刷）と第1次昭和6銭とのコンビネーション・カバーで、消印は現地で調製したと思われる片仮名「大日本」ゴム印である。南方使用は偽物も多いが、ここまで手書きで宛名が書いてあると、本物であると確信できる。